奈良学園中学校・高等学校　　令和7年度　学校評価総括表

項目ごとの評価（4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C：課題を残している　D：課題が多く速やかな改善が必要）

大項目	中項目	小項目	具体的方策（評価指標・観点）	担当分掌	評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅰ　教育活動に関するもの	（1） 教育目標・教育計画	① 教育目標について	・「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成する。 ・自己実現に向けて、基本的生活習慣・基礎学力の定着を図り、自学自習できる姿勢を育む。	・管理職 ・管理職	A	A	・学校経営方針に基づいた各分掌の計画を作成し、教員間で共通理解・共通認識を持ち、教育活動に取り組んだ。 ・自学自習ができる生徒に育てるための各学年での取組の体系化に取り組んでいるが、教員間での共通認識が不足している。	・自学自習ができる生徒に育てるための各学年での取組をさらに体系化・明確化し、各取組の意義等について教員間で共通認識を図る。	・概ね良好 である。
		② 教育計画について	・SSH Ⅰ・Ⅱ期の取組をベースに、課題研究における組織的・体系的な指導体制を確立し、一段高い研究開発を行い、生徒の学習意欲を高め、学力アップにつなぐ。 ・ICTの効果的な活用を図るとともに、生徒が主体的・能動的に取り組み考える探究型授業を展開する。	・管理職 ・教務部	A		・SS発展チームからSS発展グループに改組し、2年目の現高2生の在籍は30名、現高1生の希望者も31名となり、課題研究に興味を持っている生徒が増加した（現高3生は28名）。 ・探究型授業では中2で「日本語探究」の授業の実践であったり、徐々に効果的な授業が広がっているが、まだ学習効果の高め方に教員間でばらつきがある。	・探究型授業について、教員の自己啓発と校内で研修できる機会を増やす必要がある。	・SSHについては、里山がすべてではないが、もっと多くの生徒が里山に興味をもてるようなプログラムを考える必要があるのではないか。
		③ スクールポリシーについて	・カリキュラム構想委員会を開催し、スクールポリシー等を策定する。	・管理職	A		・カリキュラム構想委員会を開催し、スクールポリシー等のあり方を協議し、策定した。 それを学校ホームページに掲載し、一般公開した。	・策定したスクールポリシーをもとに教育の取り巻く状況を踏まえつつ、本校としてのあるべき教育活動を、教職員全員が共有し実践するよう徹底する。	・国際性の涵養のための取組を考える必要がある。海外研修だけでなく、国内においても多様性を育てていける機会はあると考えるので、生徒にとって有意義な機会を設けてもらいたい。
	（2） 教科指導	① 学習指導計画の立案について	・カリキュラム構想委員会を設置し、課題を共有し、その改善に向けて協議する。 ・各教科における教科指導の課題を明確にし、6カ年を見通しての学習指導計画を策定し実施する。 ・大学受験を見すえた観点別評価の研究を進める。	・教務部 ・教務部 ・教務部	A	A	・カリキュラム構想委員会を5回開催し、令和9年度以降の教育課程について協議した。 ・R10年度からのSSHに対応する教育課程を検討した。 ・6カ年の各教科の教育プログラムについて検討した。	・今年度に検討を始めた左記の項目について、さらに検討を深めていく必要がある。	・概ね良好 である。
		② 指導方法の工夫	・生徒の深い学びや学習内容の定着に向け、授業改善に努める。 ・目標・指導・評価の一体化を意識した授業改善や評価改善に取り組む。 ・ICTを活用して、学習内容を深く考えさせる授業方法を創意工夫し、教員間で共有していく。 （評価指標・観点） ①授業を通して学習内容を深く考えることができているかどうか。 ＜生徒アンケート結果より＞ ②授業は、新たな知識を得たり、疑問を解決したりするために役立っているかどうか。　＜生徒アンケート結果より＞ ③授業では、ペアやグループになって自分の考えを言ったり友だちの考えを聞いたりする機会があるかどうか。　＜生徒アンケート結果より＞ ④授業では、自分やグループの考えを友だちに伝えるために工夫して発表する機会があるかどうか。　＜生徒アンケート結果より＞ ⑤学校のコンピュータや情報通信（ICT)に関連する施設・設備が充実しているかどうか。　＜生徒アンケート結果より＞	・教務部 ・教務部 ・教務部	A		・年2回、教科ごとにICTを有効に活用した研究授業を実施し、教員のスキルアップを図った。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」90.1%、（今年度第1回90.2%、昨年90.2%、一昨年90.7%）であるが、 「そう思う」だけでは41.8%、（今年度第1回41.2%、昨年39.0%、一昨年44.0%）。 ②「（どちらかと言えば）そう思う」93.2%、（今年度第1回94.2%、昨年92.8%、一昨年94.4%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」88.2%、（今年度第1回90.2%） ④「（どちらかと言えば）そう思う」79.5%、（今年度第1回80.1%） ⑤「（どちらかと言えば）そう思う」85.3%、（今年度第1回84.8%、昨年84.4%、一昨年84.5%）	・研究授業だけでなく、日頃からICTを活用した授業について教員間で共有を図り、より効果的な活用方法の研究に努める。 ・非認知能力について、育てる機会はある程度持てているので、単に発表の場にするのではなく、生徒の自己肯定感の向上に役立てるなど教員が意識的に活用する必要がある。	・AIの活用について議論をすすめ、活用のルールを整備し、安全かつ有効に教科指導に導入できるように考えていくことが必要である。 ・多忙の中、校外に出向いての研修は難しい面もあるのではないかと考えるので、校内での学びの機会を重視し、研究授業などを大切にしてほしい。
	（3） 道徳（人権）教育	道徳(人権）教育について	・道徳（人権）教育年間計画に基づき、生徒の実態に合った道徳（人権）教育を工夫して行う。 ・人権に関する様々な課題について、当事者意識を持たせるなど、人権意識の向上を図る。 ・生徒一人一人の人権意識を高め、人権への理解を深めるため、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組を推進する。 （評価指標・観点） ①「道徳」の時間、ホームルーム活動の時間や人権講演会などを通して、適切な人権教育が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②学級活動の時間やホームルーム活動の時間などで、自分の生き方、あり方について考える機会があるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・人権教育部 ・人権教育部 ・生徒指導部/各学年		A	・中学生は「あきらめない心」と題して、ちゃんへん．氏により、ジャグリングのパフォーマンスやラップの音楽とともに、いじめに負けず、挑戦し続ける気持ちを聴かせていただいた。 ・高校生は「音楽で国境を越えて伝えたい!!」と題して、ロックバンドFUNKISTのボーカル　染谷西郷　さんにより、「偏見をもたないこと」や「友情」の大切さをお話とともに力強い歌声を聴かせていただいた。 ・高校1年で「先住民族とマジョリティ：マリオとパケハ、アイヌと和人、関係性を考える」（岡崎享恭氏の講演）と題してマイノリティの人権の尊重について学んだ。 ・高校2年で奈良県外国人支援センター勤務の在日外国人の方による講演により、外国人との共生の必要性を学んだ。 ・高校2年の研修旅行で希望者は「ウポポイ」を訪れ、アイヌ文化について学んだ。 ・教職員が人権課題について深い知見を養うため、積極的に研修に参加し、教員人権研修等で共有した。 ・人権教育部が発行する「こころのプリント」を効果的に活用するため、学年との連携を図った。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」94.6%、（今年度第1回92.6%、昨年90.3%、一昨年93.9%）であるが、 「そう思う」だけでは32.3%、（今年度第1回28.3%、昨年28.6%、一昨年30.4%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」78.0%、（今年度第1回75.4%、昨年74.8%、一昨年75.0%）であるが、 「そう思う」だけでは33.5%、（今年度第1回31.1%、昨年33.3%、一昨年34.1%）	・ホームルームや学級活動の時間などにおいて、人権教育計画に基づき、生徒の実態に合った人権教育を各担任が工夫して行う必要がある。 ・人権に関する様々な課題について、自分と他者の違いを認め合い、互いを尊重することについて考えさせるなど、当事者意識を持たせながら進める必要がある。 ・地道で継続的な取組により、人権意識の向上を図る。特に、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組をさらに自主的なものにする。 ・生徒の自主的な行動を促すとともに、生徒自身が自然と自らの生き方やあり方を考えていけるように、上述のような取組の意味を理解させる。	・概ね良好 である。

大項目	中項目	小項目	具体的方策（評価指標・観点）		評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅰ 教育活動に関するもの	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	・生徒の自主的・主体的な取組ができるよう指導・助言を行う。 ・ホームルーム活動や特に中学校での学級活動において、生徒の自発的、自治的な活動が展開できるよう、計画的な事前準備を行う。 （評価指標・観点） ①生徒会（委員会）活動やホームルーム（学級）活動に積極的に取り組んでいるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・生徒会指導部 ・生徒指導部	B	B	・「令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害に対する継続的支援の必要性」の観点から募金運動を行った。 ・郡山警察署からの依頼を受け、特殊詐欺に関する啓発活動に参加した。 ・大和郡山商工会からの依頼を受け、「やまとの夏祭り」にスタッフとして参加した。 ・ベルマーク・使用済みコンタクトレンズケースの回収活動を行った。 ・学内の生徒の気風を改善する必要性を生徒会新聞で語りかけるとともに、あいさつ運動を行った。 ・目安箱を通じてひろく生徒の声を拾い、校内各部署と相談・連携しつつ校内環境の改善に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」71.9%、（今年度第1回73.6%、昨年71.2%、一昨年71.2%）であるが、中学校だけでは68.9%（今年度第1回70.3%、昨年66.9%）	・生徒の自主的かつ主体的な取組を見守る。 ・中学生の委員会や学級活動への取組がやや消極的であるため、引き続き中学生の自発的かつ自治的な活動が助長されるよう、計画的な事前準備を実施する。 ・地域との交流のきっかけとして、「奈良学園をきれいにする日」といった取組を再開し、まずは校内の活動を活性化し、徐々に校外へと活動の場を広げていく。	・中学生が主体となる機会を増やすことよりも、今ある活動において、中学生が先輩から学ぶ機会を多く持つように導いていくことがまずは大切である。その上で、中学生が主体となって活動できることも考えていけばよいのではないか。
		② 部活動について	・部活動をとおして、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育む。 ・部活動と学習の高いレベルでの両立ができるよう、その取組方法や意識の持ち方などを生徒や卒業生が発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。 （評価指標・観点） ①部活動を通して、生徒の人間形成が育まれているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②部活動は充実していたかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③勉強と部活動の両立ができたかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・保健体育/生徒指導部 ・進路指導部	B		・概ね各部活動とも目標をもって活動し続けることが出来た。また、生活習慣、学習習慣を意識させることで、学習と部活動を両立できたと感じる生徒が増えてきている。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」91.4%、（今年度第1回90.8%、昨年89.0%、一昨年90.8%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」89.1%、（今年度第1回91.4%、昨年88.6%、一昨年90.7%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」74.5%、（今年度第1回76.7%、昨年71.1%、一昨年71.3%）であるが、 「そう思う」だけで28.5%、（今年度第1回32.8%、昨年27.5%、一昨年30.6%） 令和3年度では「（どちらかと言えば）そう思う」が88.9%であったので、今年度は令和3年度と比較し**14.4**%の減少となっている。が、昨年、一昨年と比較すると、3.3%程度増加している。	・勉強と部活動の両立をはかる項目として「時間管理」「優先順位」「メンタル・体調管理」「効率的な練習・学習」そして「一般的な結果」などが考えられる。ところが「一般的な結果」にだけ目がいきがちで、達成度が一人一人の実情に合致していないように思われる。非認知能力とも関わるが、生徒個々が目標立て、それを達成していくという意識を持たせ、一人一人の充実度を測るものにしたい。その上で、さらに生徒が描いている以上の達成を目指せるように、卒業生からその取組方法や意識の持ち方などを聞く機会を設け、生徒全体の意識改革を行う。	・概ね良好 である。
	(5) 総合的な探究（学習）の時間の指導	特別講座、 「卒業論文 （課題研究）」について	・外部人材による講座等を企画するなど、広い視野を養い、興味・関心を高めることができるように工夫する。 ・「課題研究」が課題研究にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法を体系化していく。 ・「課題研究」に取り組むことで、「なりたい自分」を確立できるようにする。 （評価指標・観点） ①課題研究」・課題研究を通して得るものがあったかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・進路指導部 /SSH部 ・SSH部/中学3年		B	・中3生を対象に「法学教室」、「財政教室」を実施した。 ・中2で「日本語探究」を実施し、日本語についての理解を深めるとともに、探究の方法も学んだ。また、コンテストへも参加し、奨励賞1名、入選も2名いただいた。 ・中2で実施していた「Locus　探究学習プログラム」に代わり、奈良県の企業「三光丸」、立命館大学平和ミュージアム、万博に出かけ、それぞれの場所で探究学習を行った。 ・SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義を6回開催した。 ・中3生全員に取り組ませている「課題研究」においてゼミ形式の中間発表会を実施し、2月には発表会を実施した。 ・「課題研究」の研究を日本学生科学賞に応募し奈良県審査 中学生の部の優秀賞を受賞した生徒がいた。 ・中学全学年で「Critical ・Thinking」を行い、物事の背景を探るトレーニングをした。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」76.9%、（今年度第1回83.3%、昨年77.5%、一昨年74.4%）	・各学年の生徒にとって学習内容が、自分の将来を考える機会としてまだまだ十分に捉えられていないので、その趣旨や意義を生徒に理解させた上で授業を行う必要がある。	・進路について目標をもてるように、さらに充実した特別講座などでキャリア教育などを実施していく必要がある。 ・また、学校が考えたテーマだけでなく、生徒にアンケートをとって特別講座のテーマを決めるのもいいのではないか。

項目ごとの評価（4段階評価　　A:極めて達成度が高い　　B:概ね達成できている　　C:課題を残している　　D:課題が多く速やかな改善が必要）

大項目	中項目	小項目	具体的方策（評価指標・観点）		評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅰ　教育活動に関するもの	(6) 進路指導	進路指導について	・生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 ・各学年での進学セミナーを効果的に実施する。 ・総合型選抜、学校型選抜等の多様な入試や新課程入試に向けての情報収集や教員向け講座案内を定期的に行い、教員のスキルアップを図る。 ・中学校での進路指導、キャリア教育の充実を図る。 （評価指標・観点） ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・進路指導部 ・進路指導部 ・進路指導部 ・進路指導部		A	・各学年において外部模試等を実施するとともに、補習を実施した。高3においては志望校別に、大学の名を冠した講座を中心に25講座開講した。 ・中1～高2においては、考査や模試の成績をもとに、上位層を伸ばす講座および下位層をフォローする講座を開講した。また中1、2年では定期考査前に自習教室を開講している。 ・中3・高1生を対象とした東大研修会（8月11日～12日）を東京大学で実施し、60名が参加した。 ・中3・高1生を対象とした京大研修会（1月20日）を京都大学で実施し、94名が参加した。 ・高2生を対象とした夏期セミナー44名、冬季セミナー51名が参加し、ともに信貴山観光ホテルにて2泊3日で実施した。 ・県立奈良・畝傍・郡山・高田高校4校との合同企画で東京大学教養学部教授宇野健司先生を講師に迎え、リーダーシップ論などをディスカッション形式によるゼミを8月、12月の2回実施し、7名が参加した。 ・高1・2生を対象に大学模擬講義を実施した。 ・高1・2年生の医学部希望者に医学部専門予備校 メディカルラボの先生の講演会を行う。 ・中3～高2生の医学部希望者に奈良県へき地医療支援機構専任担当官 明石陽介先生の講演会を行う。 ・卒業生人材バンクがないため、卒業生をキャリア教育等に有効に活用できていない。 ・各学年に応じた進学セミナーの運営や講演会など学年によってばらつきがあった。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」86.9%、（今年度第1回85.0%、昨年83.4%、一昨年82.1%）であるが、「そう思う」だけでは中学校で25.3%、（今年度第1回26.2%、昨年27.0%、一昨年21.8%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」87.0%、（今年度第1回84.0%、昨年82.3%、一昨年83.9%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」80.4%、（今年度第1回82.9%、昨年81.2%、一昨年82.0%）	・新課程での共通テストを研究・分析し、授業の進め方等の改善に繋げる。 ・同窓会と連携を取り、各業界で活躍する卒業生をキャリア教育等で協力していただく仕組みをつくる。 ・進学セミナーや講演会など進路に関する行事に関して、進路指導部でその趣旨を各学年に示し、学年によるばらつきを解消し有意義なものとする。	・進路について目標をもてるように、さらに充実した特別講座などでキャリア教育などを実施していく必要がある。 ・また、学校が考えたテーマだけでなく、生徒にアンケートをとって特別講座のテーマを決めるのもいいのではないか。
	(7) 生徒指導	① 生徒指導について	・集団生活のマナーやルールを理解させるとともに基本的な生活習慣を確実に確立させるよう指導する。 ・生徒指導部と各学年が連携し、日々の面談や「こころと生活に関するアンケート」等により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・中学校における基本的生活習慣の向上を図り、集団における自分を自覚させる取組を行う。 ・教職員が粘り強く生徒理解に努め、生徒の変化に気づき、保護者と連携を図りながら適切な指導を行う。 ・日常の清掃を通して、日頃から校舎を綺麗に使うこと、公共の場で他者に迷惑をかけないこと、設備を大切に使うマナーを身に付けさせる。 （評価指標・観点） ①いじめを許さない取組が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②規範意識や基本的な生活習慣が身につくように指導が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、生活面の指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④校内清掃や美化にしっかり取り組めているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・生徒指導部 ・生徒指導部 ・生徒指導部 ・生徒指導部 ・生徒指導部/環境文化部	B	B	・学級活動やホームルーム活動等をとおして、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。 ・「いじめのアンケート」を年間3回実施した。その結果をもとにいじめ問題対策委員会を開催し、早期解決に向けて生徒指導を行った。 ・生徒指導委員会を10回（2月21日まで）開催し、教員間で情報を共有しながら適切な生徒指導を行った。 ・中1（6月12日）「いじめとその予防について(株式会社マモル代表くまゆうこ氏)」 ・中2(11月10日)「思春期の子育てについて(奈良県立教育研究所教育支援部 支援・相談係長 香美美穂氏)」 ・中3（11月6日）「子どものネット利用の現状と対策～家庭でできる見守りと声かけ～(NPO法人e-Lunch理事長 松田直子氏)」 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」86.5%、（今年度第1回84.3%、昨年80.2%、一昨年83.0%）であるが、 「そう思う」だけでは23.0%、（今年度第1回20.8%、昨年18.6%、一昨年17.8%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」86.8%、（今年度第1回86.9%、昨年85.0%、一昨年85.1%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」87.1%、（今年度第1回87.7%、昨年86.4%、一昨年87.1%） ④「（どちらかと言えば）そう思う」87.3%、（今年度第1回86.4%、昨年85.9%、一昨年86.9%）	・今年度実施した保護者向けの講演会を来年度も実施し、保護者と協力して中学生の指導にあたる。 ・生徒指導部と学年が連携し、年間3回の「いじめのアンケート」により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・規範意識や基本的な生活習慣を生徒に身につけさせるために、すべての教職員が繰り返し粘り強く生徒と向き合う必要がある。それは、「押しつけ」ではなく、対話に重点を置いて「納得」させることを前提に行い、教員が手本となるような行動を意識するようにしないといけない。	・概ね良好 である。
		② 教育相談等について	・教育相談体制を生徒・保護者に周知することで、そのより有効的な活用を図る。 ・生徒指導情報共有システム（気づき通信）を活用し、思春期特有の多様な悩みを持った生徒の支援を図る。 （評価指標・観点） ①生徒の悩みを把握して迅速な対応が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③先生は、生徒の悩みや困り事を把握して迅速に対応しているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・生徒指導部 ・生徒指導部	B		・ 「気づき通信」による情報共有はシステムの使いにくさなどで使用頻度は低かったが、その代わりとしてメールなどで情報共有を行った。 ・「こころと生活に関するアンケート」を1学期に実施、その結果を教員間で共有した。またアンケート結果が心配な生徒はスクールカウンセラーに繋いだ。 ・スクールカウンセラー活用状況（2月21日まで） 中学　28件　のべ139回 （昨年46件のべ193回、一昨年35件のべ173回） 高校　25件　のべ148回 （昨年15件のべ89回、一昨年17件のべ88回） ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」82.2%、（今年度第1回79.1%、昨年78.9%、一昨年78.7%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」88.1%、（今年度第1回85.5%、昨年84.3%、一昨年85.4%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」83.4%、（今年度第1回83.5%、昨年79.8%、一昨年80.3%） ④「（どちらかと言えば）そう思う」77.2%、（今年度第1回76.1%、昨年75.6%、一昨年73.9%）	・生徒指導情報共有システム（気づき通信）の有効活用のため、改善点を精査しシステム改修を行う。 ・今後もスクールカウンセラーを週２日配置し、教育相談体制について生徒・保護者へさらに周知し、必要に応じて活用を促す。 ・教育相談の実施状況の共有を図る。	・概ね良好 である。

Ⅱ　学校経営に関するもの

項目ごとの評価（4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C：課題を残している　D：課題が多く速やかな改善が必要）

大項目	中項目	小項目	具体的方策（評価指標・観点）		評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅱ 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	・学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催し、全教職員が課題意識を共有できるように努める。 ・各校務分掌会議や各委員会を定期的に開催し、学校運営のさらなる活性化を図る。	・管理職 ・管理職		B	・左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。 ・学年主任会議では、各学年主任から心配している生徒の情報と対応について共有している。 ・学年が企画して行われる取組も多くあり、学年によって内容や時期にばらつきが出るため、分掌が主導で取り組む必要があった。	・校務運営委員会及び各委員会の機能をより生かしながら、学校運営のさらなる活性化を図る。 ・分掌が主導し、学年と連携して各行事等を実施する。	・概ね良好 である。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	・教職員の資質及びスキルを高めるため、教育の今日的課題についての校内研修を実施する。 ・探究型授業を推進するための研究授業を各教科で行う。	・教務部 ・教務部	A	B	教員研修 ・7月30日「教育相談　職員研修会」SC中村由未子氏 ・8月1日「中学校・高等学校におけるハラスメント防止について」 弁護士　板谷直樹氏 ・9月11日「生徒のやる気を引き出す『学習する空間づくり』」授業学研究所所長　大矢純氏 ・人権職員研修（年5回） ・探究型授業に関する研修ができなかった。	教職員の資質能力の向上を図るため、本校にとって必要な研修を企画する。	・概ね良好 である。 ・多忙の中、校外に出向いての研修は難しい面もあるのではないかと考えるので、校内での学びの機会を重視し、研究授業などを大切にしてほしい。
		② 校外の研修への参加	・教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加し、研修の成果を各教科等で一層共有していく。	・教務部	B		・予備校主催研修　12名参加。（昨年度19名参加） ・研修成果を教員間での共有ができていなかった。	・参加できなかった教職員が研修内容を共有できる仕組みをつくる。	・概ね良好 である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	・教員の安全管理の意識を高め、生徒が安全で安心して過ごせる環境作りに努める。 ・防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、引き続き実施していく。特に自転車マナーについての指導を徹底して行う。 ・県のガイドラインに基づき、熱中症対策を実施していく。 （評価指標・観点） ①登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②感染症対策が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、防災訓練を通して、災害時や非常時の避難経路の確認が行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④学校では、登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ⑤熱中症対策が適切に行われている。＜生徒アンケート結果より＞ ⑥学校では、感染症対策が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・生徒指導部 ・環境文化部 ・保健体育部		A	・自転車安全運転のための指導を継続実施し、自転車マナーについての指導も続けているが、苦情の連絡が8件（昨年度19件）あった。 ・保健体育部主催の救命救急法研修をに日本赤十字社奈良県支部より講師を招いて実施（7月3日教職員対象、7月8日生徒対象） ・天候急変時（落雷・竜巻など）の対応ガイドラインを作成し運用した。 ・「救急法等講習会」、「サイバー犯罪防止教室」「薬物乱用防止教室」「自転車安全運転講習会」を各対象生徒に実施した。 ・自転車通学時の事故件数（2月21日まで） 　警察・救急車を要請した事　0件　（昨年1件） 　転倒等で軽傷であった事故　1件　（昨年2件） ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」88.7%、（今年度第1回88.4%、昨年86.5%、一昨年88.6%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」85.9%、（今年度第1回81.8%、昨年81.8%、一昨年86.1%） ③「（どちらかと言えば）そう思う」90.7%、（今年度第1回90.0%、昨年88.9%、一昨年76.9%） ④「（どちらかと言えば）そう思う」86.6%、（今年度第1回87.7%、昨年86.2%、一昨年85.6%） ⑤「（どちらかと言えば）そう思う」85.9%、（今年度第1回83.9%、昨年81.3%） ⑥「（どちらかと言えば）そう思う」77.3%、（今年度第1回79.0%、昨年78.0%、一昨年81.1%）	・熱中症対策ガイドラインに基づき、諸活動での熱中症対策を行うが、想定外の異常気象にも柔軟に対応し生徒の安全を図る。 ・自転車通学時の安全運転とマナーについての指導をさらなる徹底を行い、事故件数、苦情件数を減らす。 ・異常気象による天候急変に対し、法人により導入した雷警報器（Lightning Station）を利用し、またガイドラインに基づき厳正に対応した。その結果、特に里山への入山を制限することになったので、次年度以降の対応方法を再考する必要がある。	・概ね良好 である。

項目ごとの評価（4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C：課題を残している　D：課題が多く速やかな改善が必要）

大項目	中項目	小項目	具体的方策（評価指標・観点）		評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅱ 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	・生徒の健全な心身の発達を促すとともに、必要な情報の収集及び啓発に努める。 ・教職員はスクールカウンセラーとの情報交換を定期的に実施し、専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていく。 ・スクールカウンセラーを含む教育相談体制を生徒・保護者に周知する。 （評価指標・観点） ①スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	・保健体育部 ・生徒指導部 ・生徒指導部/管理職 /各学年		A	・スクールカウンセラーを週2回配置した。 ・教育相談事例研究会を兼ねた「教育相談　職員研修会」を1学期に実施した。 ・「相談室だより」を生徒向け3回、保護者向け1回発行した。 ・健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、食物アレルギー事故防止に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」88.1%、（今年度第1回85.5%、昨年84.3%、一昨年85.4%） ②「（どちらかと言えば）そう思う」77.2%、（今年度第1回76.1%、昨年75.6%、一昨年73.9%）	・スクールカウンセラーと教職員との情報交換をさらに密に実施する。 ・教員はスクールカウンセラーの専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていくために、研修会を引き続き開催する。 ・教育相談体制についての認知は上がってきたいるが、来年度も生徒・保護者への周知が必要である。	・概ね良好 である。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	・地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動を行う。 ・近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動について指導を徹底する。また、保護者の送迎時のルールについても徹底する。 ・各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める	・生徒会指導部 ・生徒指導部 ・管理職	B	B	・地域の小学生を招いて「奈良学塾」を2回開催した。 ・「全国中高生環境活動フォーラム」を本校主催で実施し、里山の再生整備について学術交流ができた。 ・地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動は実現できなかった。 ・生徒の通学マナーや保護者の送迎等で近隣住民にご心配やご迷惑をかけた。	・今年度も実施できなかった、生徒会と地域の方々との交流の場を設け、地域の方々との交流を図る。 ・生徒の通学マナーの指導や保護者の送迎時のルールの遵守について、さらに徹底する必要がある。	・地域連携はどんどん進めるべきだと思う。
		② 保護者・育友会との連携について	・育友会本部役員との定期的な懇談や保護者との懇談等をとおして、本校の教育について共通理解を図る。 ・学校評価委員会を組織し、育友会から参加していただき意見を仰ぐ。 （評価指標・観点） ①保護者会や三者懇談、学年だよりを通して、学校の様子をうかがい知ることができるかどうか。＜保護者アンケート＞	・総務部 ・管理職	B		・1学期に1回、2学期に1回、学年ごとに保護者会をもち、学校と保護者の相互理解を図った。 ・育友会の本部役員と学校管理職との懇談の会は開催できなかった。が、保護者への学校評価アンケートに「学校へのご意見・ご要望」を書いていただく自由記述欄を設定した。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」95.0%、（今年度第1回94.5%、昨年92.3%、一昨年90.1%）	・今年度も本部役員との懇談会は開催できなかったが、保護者の意見を聞く大切な機会なので、来年度は機会を持ちたいと思う。	・概ね良好 である。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	・全教職員が連携して学習環境を整備する。 ・学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画を検討する。	・管理職 ・事務室		A	・PCルームのPC入れ替え。 ・教室のエアコン分解清掃。 ・軽音楽部部室屋根の補修。 ・安全衛生委員会を定期的に実施し、校内の環境の安全確認に努めた。	・学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画に基づき進める。 ・生徒にとって安心・安全な施設を維持するため日頃から注意して管理に努める。	・概ね良好 である。
	(7) 情報管理 ・提供	① 個人情報の管理・保護について（未）	・常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。	・管理職 ・事務室	B	A	・定期考査の採点前データを誤って生徒にClassiにて配信。	・常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。 ・誤配信を防ぐために、個人情報のデータにはそれとわかるように明記し、データを送る場合には個人ではなく、複数の目で確認して送ることとした。	・概ね良好 である。
		情報の提供について	・HPを刷新し、外部の方にもわかりやすい情報や資料の公開・提供に努める。 （評価指標・観点） ①学校のホームページやインスタグラムから最新の情報や必要な情報を得ることができるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞	・入試広報部	A		・HPを刷新し、ニュース＆トッピクスも本年度62件（2月16日現在）となり、昨年度の55件を上回って発信した。 ・育友会の協力を得ながら学校行事等の様子を「育友会だより」等で伝え、情報提供に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「（どちらかと言えば）そう思う」88.6%、（今年度第1回85.2%、昨年77.3%、一昨年76.6%）	・リニューアルして、今までよりアクセスしやすい構造になったが、さらに使いやすさを追求していく。 ・HPの更新を頻繁にして、外部の方にもわかりやすい情報発信に努める。	・概ね良好 である。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	・本校の特徴や教育内容をより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等でのプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。 ・SNSを効果的に使い、情報を発信していく。 ・校外でも学校主催の説明会を開催していく。 ・近畿圏の受験の動向を注視し、入試制度等の見直しを検討する。	・入試広報部 ・入試広報部	B		・1回あたり60組限定の学校見学会を計5回と50組限定の追加の見学会の4回実施した。 ・中学生対象の学校見学会を実施し、12月には出願直前の学校説明会を2回実施した。 ・今年度も中学入試説明会、高校入試説明会において卒業生に学校生活について話しをしてもらい好評を得た。 ・ブース形式の説明会や塾訪問の回数を増やし、本校のあらゆる教育活動を周知し理解してもらえるよう広報活動に工夫を加えた。 ・昨年度より中学入試では、加点制度を導入し、高校入試では理数コースを文理コースと変更した。志願者数変化。（中学入試693名⇒742名⇒689名　、高校入試258名⇒275名⇒282名　） ・SNSを活用した広報活動を実施した。	・本校の特徴やよさをより理解していただけるよう、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等についてさらに工夫・改善に努める。 ・高校授業料無償化を念頭に、多くの地域から受験者が増えるよう広報活動の範囲を広げる。 ・受験希望の児童・生徒・保護者にわかりやすいHPの改良やSNSの活用に努める。	・広報については、全職員が広報についての考えを共有し、外に発信していく内容を広報担当と共有できるようにする必要がある。 ・もっと他校との差別化をはかり、奈良学園の特徴をしっかりアピールすることが大切。
		② 入試事務について	・守秘義務を徹底し、入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など厳正な入試を滞りなく行っていく。 ・中学・高校入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。	・入試広報部 ・入試広報部	A		・守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。 ・デジタル採点等の習熟により、入試事務をより円滑・正確に進めることができた。 ・出願、合否照会、入金決済等で利用できるシステムにより、円滑かつ正確に業務を行った。 ・中学・高校入試実績の分析が十分にはできていない。	・今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。 ・中・高の入試実績について詳細な分析行い、入試のあり方等について検討に役立てる。	・概ね良好 である。